

会 議 録

会議の名称	令和８年度 第１回 池田市社会教育委員会議
日 時	令和８年７月１５日（水） 午前１０時００分～１２時
場 所	池田市中心公民館 大ホール
出席者	《委 員》 ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 中路間 美貴 ・ 布谷 知夫 ・ 古田 刺男 ・ 田波 宣子 ・ 佐藤 秀輝 ・ 田中 晋作 計 ８名 ◎議長 ○副議長 〈事務局職員〉 ・ 藤井教育長 ・ 安原教育部長 ・ 前野生涯学習推進室長兼社会教育課長 ・ 山田地域教育課長 ・ 小畑中央公民館長 ・ 塚原図書館長 ・ 島野石橋図書館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安社会教育課主幹（社会教育主事） ・ 福島地域教育課副主幹（社会教育主事） ・ 三角地域教育課指導員（社会教育主事） 計 １１名
欠 席 者	なし
傍 聴 者	なし
議 題	１．アイスブレイク ・ あなたにとっての well-being とは ・ 池田市の社会教育の目的とは ２．議事 （１）池田市社会教育関係事業の推進体制及び進捗状況について （２）第２次池田市教育振興基本計画の運用状況及び今後の方策について
配 布 資 料	資料１． Well-being に関する資料 資料１－２． 第２次池田市教育振興基本計画の運用状況及び今後の方策について 一池田市の社会教育の「目標」について一 資料２． R8年度 池田市社会教育関係事業の推進体制及び進捗状況について 資料３． 第２次池田市教育振興基本計画 推進プラン ２０２４～２０２７

議 事 経 過

開会

（教育長あいさつ）

（議長あいさつ）

事務局 新任委員、事務局職員の紹介

アイスブレイク

・ Well-being について

事務局 資料 1 により、Well-being（幸福）について社会教育関係の課、施設長のアンケート結果を説明。

・ 池田市の社会教育の目的とは

事務局 資料 1－2 をもとに、池田市の社会教育の目標について提言（Well-being の実現について言及）

委員 市民の提案に対して教育委員会がどう受け入れるか、ということができていない。やり方次第で、市民が教育の場を提供できる市民講座が可能ではないか。

事務局 社会教育と市民活動とが手を取り合っていくということが少ない。自分たちが学習したことが市民活動につながっていく、そして自分たちの学びの成果を実感する、そういう場をつくることが大事であると考えます。

委員 市民が集うきっかけをいかにして作るか。人がつながっていくことが大事であり、それが社会教育の目標になっていく。

委員 市民にとって Well-being が身近なものになっているのか、市民がどう考えているのか。市民に統一した社会教育の認識というものを分かりやすく示すことが大事であり、社会教育の共通認識というものが要る。

委員 Well-being について、学校でもどこまで浸透しているのか課題であり、市民一般の人にも、Well-being について周知されていない。

委員 社会教育に参加された方がどう学んで次の段階にどうつなげていくか。行政として次のステップへアドバイスしてあげる、環境づくりをしてあげる、そういう場を作っていくことによって次につなげていくことが社会教育の役割であり大事なことです。

議事（１）池田市社会教育関係事業の推進体制及び進状況について

事務局より、資料 2 に基づき説明

委員 部活動の地域移行についてはどこが担っているのか。

事務局 部活動については学校教育推進課が担っているが、部活動の地域展開については社会教育課が担っている。現在、30 団体 60 クラブほどが活動をしている。

委員 部活動の地域移行については、どう展開していくのかまだまだ不安がある。親もどうなっていくのだろうと心配している。部活の進捗状況について、広報などで情報を公開してもらえれば市民も安心するのではないかと。

委員 中体連や学校ごとの試合、また、小学校の吹奏楽など、どうなるのか。

事務局 これからの検討。

委員 水月児童文化センターの耐震やどこかの施設との統合ということは。

事務局 市の施設全体の計画になかで耐震、統合について検討される。

委員 市民が何かをやりたいという時、それをどこに言えばいいのか。どこの施設で活動していけばいいのかというプロセスが分からない。市民と提携できる仕組みができていないのでは。ワンストップでできる仕組みが欲しい。

委員 色々な特技を持った市民がいる。教育コミュニティ作りのなかで人材バンクという話があったが、市民に呼びかけを行って登録をして活用していく、そういうようなことができないか。

事務局 地域人材など、教育コミュニティ作りにおいて検討を進めているところ。

委員 中央公民館は社会教育のなかで一番市民に近い施設である。情報提供をもっと積極的にユーザーにしていかなければならない。

委員 人員、予算の面で公民館が直接事業を行うということには、もう限界にきている。市民活動が多様化しているため、公民館はその触媒的な役割を果たし、市民が自主的に計画して関わっていく、公民館はそれをバックアップする役割を果たすということが必要ではないか。公民館が何か起爆剤のようなものを計画し、そこに参加した市民に対し、何かできませんか、と提案するような仕組みが必要。

委員 他市では、講座が終わって、茶話会のような話し合いの場、座談会が行われ、そこで色々な意見が出て、要望を聞き、そこから次にこういう講座をやっていこうというように、その会が継続して活動をしている。講座が終わってそれでおしまいというのではなく、こうした仕掛けをつくることが大事である。公民館職員は色んな所を見に行くべきで、良い勉強になり良い案が出ると思う。公民館運営審議会の委員も一緒に行ったら良い。

委員 地域の企業とも連携すれば良い。

委員 図書館司書、資料館学芸員についてもそうだが、専門職としてマンパワーが必要である。待遇はどうなっているのか。

事務局 図書館司書は非正規職員が多いが、待遇改善は一定程度進んでいる。

委員 博物館に来る利用者の質問に対し、職員がちょっとしたアドバイスをすることで色んな事ができる。社会教育の職員は利用者に何ができるか考えてあげることが大事で、利用者が主体となって何かできるようにアドバイスをすることが大事である。

委員 歴史民俗資料館について、もっと（来館しやすい）良い場所で行えるよう検討してほしい。また、資料が増え、その保管場所に苦慮している。保管を適格にしてもらいたい。

委員 資料館で市史編さん事業をされているが、市史の刊行予定はどうなっているのか。

事務局 今のところ市史刊行の予定はないが、市制施行90周年に向け、簡単な池田の歴史等のパンフレットの作成を考えている。

議事（2）第2次池田市教育振興基本計画の運用状況及び今後の方策について

委員 定性評価の基準がわからない。評価があいまいではないか。行政としては事業評価を求めるが、大事なものは結果であり、どういう効果があったのか。そこまで考えて「評価」というものになるのではないか。

委員 どういった課題があるのかを見出すことが大事である。そのあたりを推進プランの中で見直していただければと思う。

閉会